

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 6月 11日現在

機関番号：27103

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520276

研究課題名（和文）未校訂作品 *Brittains Glory*（1684年）のテキスト編纂と解釈研究課題名（英文）A Textual Study of *Brittains Glory*（1684）

研究代表者

向井 剛（毅）（MUKAI TUYOSHI）

福岡女子大学・文学研究科・教授

研究者番号：40136627

研究成果の概要（和文）：

アーサー王物語は、1634年に出版されたスタンプビー版『アーサーの死』を最後に、およそ200年余りの間、空白の期間を迎えたとされる。しかし実際には、*The most admirable Historie of That most Renowned Christian Worthy Arthur King of the Britaines*が1660年に、また*Brittains Glory*が1684年にそれぞれ出版され、スチュアート朝後期の政治的・文化的言説空間にアーサー王伝説が配置された。

本研究は、未だ定本が無いこの2つの作品のテキストを編集し、注解を加え、併せて典拠の解明を行い、近代初期（特に、17世紀後半）におけるアーサー王物語の文化的、政治的機能を明らかにするものである。掲げた課題のうち、テキストの注解と公表を行い、典拠はほぼ解明を終えたが、この作業に時間を要したためにアーサー王伝説の受容問題を17世紀の文脈の中で、十分に解明・解釈するところまで行かなかった。今後継続して研究の対象とする。

研究成果の概要（英文）：

This research project is to edit and publish two Arthurian texts and interpret them in the socio-cultural contexts of the latter half of the 17th century. The texts in target are: *The most admirable Historie of That most Renowned Christian Worthy Arthur King of the Britaines* (1660) and *Brittains Glory* (1684), both of which have not been available in a modern edited text. These texts are important and significant in the reception-study of Arthurian matters, since they were put out in the period when Arthurian legends were dismissed as absurd or nonsense.

The present researcher has edited and published the two different texts with some bibliographical notes, and has almost formed a conclusion about the issue of sources of these two writings. However, the interpretation of the motives for these writings has not been fully made due to the unexpected amount of time spent on the source-study. The task is to be carried on hereafter.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：Brittains Glory、アーサー王物語、テキスト編集、マロリー、英国史

1. 研究開始当初の背景

トマス・マロリーの『アーサーの死』の初期印刷本を対象に、これまで各版のテキスト編集とその解釈を行い、発表してきた。調査はキャクストン版（1485年）、ド・ウォード版（1498年、1529年）、コップランド（1557年）、イースト版（1578年）、スタンズビー版（1634年）の調査を終え、ド・ウォードとスタンズビー論を発表した段階で、近代初期におけるアーサー王物語の文化的、政治的機能を明らかにし得たと考えてきた。しかしこの度、1684年刊 *Brittains Glory* の存在を知るにいたり、スチュアート朝前期に出版され、かつ大幅な本文改編が施されたスタンズビー版との比較検討が必要となった。加えて *ESTC* 印刷本目録によれば、本書は D.Wing により「マロリー作」と推定されている。使用された言語の分析や内容の比較をとおして、著作者をめぐる事の真偽を明らかにしなければならない。

また先行研究の有無を確かめれば、1994年に David Carlson が著した‘Arthur before and after the Revolution’ (In *Culture and King: Some Implications of the Arthurian Legend*, ed. by M B Schichtman) の 1 点が公表されているのみである。

こうした事情を背景に、これまで蓄積した調査資料と本作品の書誌学的分析とを比較することにより、アーサー王物語受容史（とりわけ 17 世紀）に貢献をすることができる。

2. 研究の目的

本研究は、研究プロジェクト「アーサー王物語の受容から見るイギリス社会文化史研究」の一端を占める。この通史的大テーマのもと、本研究が対象とする時代と目的は次のとおりである。

(1) アーサー王物語出版史において看過され、未だ校訂本として定本のない *Brittains Glory: History of King Arthur* (唯一ケンブリッジ大学モードリン・コレッジ図書館にユニーク・コピーが現存する。) に注解を付け、本作品に初のテキスト編集を行う。

(2) 1634 年から 1816 年までの 2 世紀におよぶアーサー王物語の受容空白期を埋める作品として *Brittains Glory* を位置づけ、本作品にスチュアート王朝後期の社会文化的状況がいかに刻印されているかを解明し、同時代の受容史を記述する。

3. 研究の方法

アーサー王物語出版史の空白を埋める貴重な作品でありながら、注目されず、本作品を対象とする研究が少ない理由は、現存コピーが 1 部しか存在しないことに加え、校訂本が公刊されていないことにある。そこで本研究では次のように研究を展開した。

(1) 現存コピー（ケンブリッジ大学モードリン・コレッジ、ピープス・ライブラリー所蔵）を底本として、テキストを校訂し定本を編纂・公表する。

(2) 詳細な注解を行う。とりわけ本作品のテキスト分析をとおして、依拠した典拠や材源を明らかにする。

(3) 書物のつくり (make-up)、著者の確認と特定、印刷家と出版人との関係、書籍業組合への登録状況など書誌学的記述を行う。

(4) 出版当時の政治的社会的状況に照らして、本作品において本文上の加除修正を経た上で展開されるアーサー王事蹟の意味づけを行い、アーサー王物語受容史研究の一端となす。

4. 研究成果

本作品のマイクロフィルムを得て、ディプロマティック・テキストを作成し、それに詳細な注解を付すことが課題となる。次いで、本作品をアーサー王物語出版史に位置づけ、比較解釈を行い、17 世紀後半に生み出された固有の作品像を浮き彫りにする。具体的には、次のようにとり行った。

平成 21 年度

ケンブリッジ大学、モードリン・コレッジ所蔵本からマイクロフィルムの提供を受け、誤植、脱字、句読点、段落構成、本文の誤りなど、基本的な編集作業を行った上で、ディプロマティック・テキストを作成した。

また同時に、Martin Parker 著 *The most admirable Historie of That most Renowned Christian Worthy Arthur King of the Brittaines* (1660 年出版) のテキストもフィルムで入手し、ディプロマティック・テキストを作成した。

これら 2 種のテキストが編纂されることにより、1634 年から 1816 年までの 2 世紀におよぶアーサー王物語の受容空白期の一端を埋めることが可能となり、アーサー王物語の受容ぶりを通して、スチュアート王朝後期の社会文化的状況を記述する準備をした。

平成 22 年度

モードリン・コレッジ所蔵本 *Brittains Glory* から本文校訂を含めたテキスト編集の作業と注解を行い、それを活字化し、公表した。

また、Martin Parker 著 *The Most Admirable Historie of That most Renowned Christian Worthy Arthur King of the Britaines* (1660 年) からディプロマティック・テキストを編集・作成した。

以上 2 種のテキストの編纂により、1634 年から 1816 年までの 2 世紀におよぶアーサー王物語の受容空白期の一端を埋めることが可能となり、アーサー王物語の受容ぶりを通して、ステュアート王朝後期の社会文化的状況を記述する準備を整えることができた。

平成 23 年度

過去 2 年間に編集した、モードリン・コレッジ所蔵本 *Brittains Glory* (1684 年) と *The Most Admirable Historie of That Most Renowned Christian Worthy Arthur King of the Britaines* (1660 年) の編集・注解テキストの一部を WEB 上に公開した。加えて、上記 2 種の編集テキストをもとに、17 世紀後半のステュアート王朝後期の政治的・社会的状況がアーサー王伝説をいかに利用し、或いはいかに排斥したかを両作品の分析を通して解明する予定であったが、両テキストの本文生成の分析過程において、依拠したと思われる典拠や材源の解明にてまどり、十分に研究を進めることが出来なかった。アーサー王物語のこの受容空白期に関する解明は、今後の課題とする。

本研究に掲げた課題のうち、テキストの編集と公表は実現できたが、典拠の特定と材源の解明が予定通りに進まなかったため、17 世紀後半の政治的・文化的状況とアーサー王伝説との関係の解明を十分明らかにすることが出来なかった。今後、継続して本課題の究明に努める。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4)

- ① 向井剛 (毅)、「マロリーとブルーワー教授の仕事」 *The Round Table*, 24 号(2010)、32-48
- ② 向井剛 (毅)、「*Brittains Glory* (1684 年) の本文校訂のために」 『文藝と思想』75 卷(2011)、1-30
- ③ 向井剛 (毅)、「W.シン版『チャーサー全集』(1532)にみるテキスト領有」 『文藝と思想』75 卷 (2011)、31-49

- ④ 向井剛 (毅)、「15 世紀の書物—写字生、印刷家、装飾家」 『文藝と思想』76 卷(2012)、1-21

[学会発表] (計 2 件)

- ① 向井剛 (毅)、シンポジウム「現代とゴシック」、日本中世英語英文学会 第 25 回全国大会 平成 21 年 11 月 29 日 慶應義塾大学
- ② 向井剛 (毅)、シンポジウム「マロリーとその伝統」 国際アーサー王学会日本支部 2011 年大会 平成 23 年 12 月 17 日 中央大学駿河台記念会館

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

該当なし。
○出願状況 (計 件)
該当なし。

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)
該当なし。

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等
<http://www.fwu.ac.jp/EN/mukai/research.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者
向井 剛 (毅) (MUKAI TSUYOSHI)
福岡女子大学・文学部・教授
研究者番号：40136627

(2) 研究分担者
なし。

()

研究者番号：

(3) 連携研究者
なし。

()

研究者番号：